



第8巻第11号
通巻第95号

杉並芸術会館

入札またも不調!

ホテルメッツは開業に向け着々

平成二〇年の会館を目指して準備が進む杉並芸術会館ではあるが、建設工事の入札がまたもや不調に終る。設計の問題なのか、それとも、アドヴァイザ野郎の口車に乗るお役所仕事のためものなのか。その一方、ホテルメッツは来春三月の開業に向けて着々と工事が進んでいる。

からす新聞社としては、高円寺周辺の建築事情に今後とも注目していきたい。

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番4号 〒166-0015からす新聞本社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

米国在住の友人から、ちよつくら成宗に
戻るから呑もうぜ、というメールが来る。
否やはない。金子(仮名)という、その男と
は幼稚園からの交わり。つまり、かれこれ
四十年にもなるのか。こうして文字にして
みると、ちよつとすごいな。

幼稚園の同級生ということからおわかり
のように、ごく近所に生まれ育ち、同じク
ラスになったりならなかったり、毎日のよ
うに遊んだりたまにしか遊ばなくなつた
り。そんなことを繰り返しながらも、ずる
ずると付き合いが続いて、気がつけば
フォー・デイケイズ。日だけを決めておい
て、あとは当日電話でつなもんでことが
済んでしまうのは、携帯電話のおかげでこ
ざる。

国鉄の駅舎の二階にある居酒屋みたいな
ところにいるから、と言われて、阿佐ヶ谷
駅の二階って何言ってるんだろうなあ、と
訝りながらペダルを踏む。で、実際に駅
に辿り着いてみて驚いた。なるほど、確か
に、駅の二階というべきところにそれらし
き居酒屋がある。知らなかったの。わ
しゃあ引き籠もりじゃけえ。その店で一頻

り呑んだところで、ちよつと連れていき
たいところがあるんだけど、と案内され、次
に腰を下ろしたのが、カウンターのばかりの
パンク呑み屋。こんなところにこんな店が
できていたのか。知らなかったの。わ
しゃあ引き籠もりじゃけえ。またもや、そ
んなことを呟きつつも、盃を重ねる。

もう一頻りアルコールを溜め込んだところ
で、少し離れた画廊バーで仕上げようじゃ
ないか、という話になる。徒歩の彼と一旦
別れ、自転車を漕ぐ。すると、ラーメン二
九〇円とかでかとかと記されている店を発
見。家系だの何だのと、近頃は高級化が進
んではかりだと思ひ込んでいたけれど、こ
ういうラーメン屋が地元にあったんですな
あ。知らなかったの。わしゃあ引き籠も
りじゃけえ。

再び合流してグラスをこつんとぶつけ、
なおも呑む。ママさんも交えて、あれこれ
と話は錯綜する。夜は更ける。いや、も
う、疾うに夜は相当に深かった。最終的に
は、かなりでるんでるんになって解散。
たっぶり呑んだ。呑み過ぎた。

(最終面に続く)

今日の紙面から

- 二面 建築)
- アルミ住宅プロジェクト
- 三面 ロンドンレポート)
- 最終回 毎日)
- (英語)
- スキャンダラスティック?
- 四面 からすライブラリー)
- 映画「運命じゃない人」



からす新聞はxxxxx

が母体となつて、世界に文
化と芸術を発信すべく発行
しています。

誰でも自由に参加できま
す(無茶じゃない範囲で)。



アルミの住宅というプロジェクトがあります。最初の住宅は九十五年にでき、その後、企業の社員寮や小さなコテージ、展覧会に出品したコンテナなどが実現しました。ところが、押し出すように、断面形状を抜き取った「型」を使い、金属のアルミを押し出して板状の部材や棒状の部材をつくり出します。金属を押し出してつくるので精度が高く、一般的な建築部材にはありえないことですが、寸法のばらつきがほとんどありません。幅三十センチ厚み五センチ長さ四メートルほどの中空の板材を嵌合（かんごう）させて壁や天井、床などをつくり出します。加えて軽量なので、現場での組立作業がとて容易になります。パーツを宅急便で送れるほど輸送が簡単なことも、プレファブリケーションのシステムとしては有利なことです。腐食しないことやアルミ独特の美しさもポイントです。

今回の住宅プロジェクトは、シックハウス症候群（化学物質過敏症）を患っている子供のいる家族のもので、シックハウス症候群を患う患者は重症になると、アルミ箔で室内を覆うとききます。アルミの住宅は、家自体、内装自体をアルミとすることができるとは、まさにこのような家族にとっては好都合な計画なのです。われわれにとっては、このような社会的な問題に住宅をつくることを通してかわることは、建築意匠として「住宅をつくる」ことが批評性を持ちえなくなってしまうかもしれない今、住宅を考えるひとつの理由をもつことができるのです。

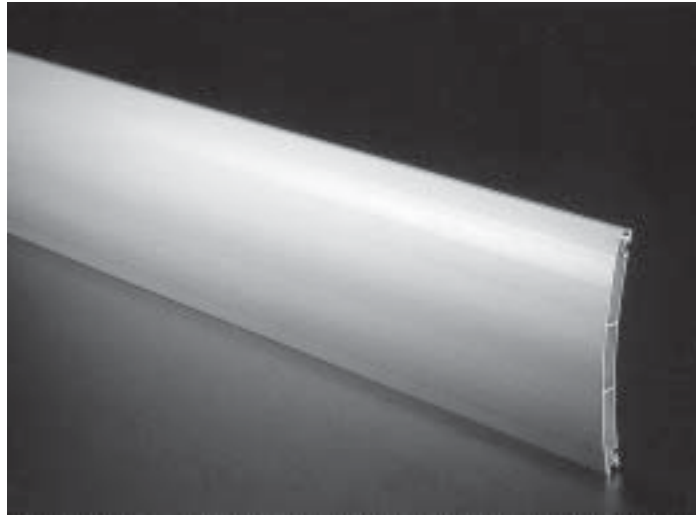
最近、このプロジェクトの担当者に、住宅の設

計に特有な、その批評性をもちえなくなってしまう原因でもある、施工と設計者の関係についての問題をどう解決したらよいかと助言を求められました。簡単にいうならば、よくあることですが、家族内で食い違う意見に対して、設計者はどのような立場をとるべきか、という問題です。実際の住み手である化学物質過敏症を患う子と、子の自立を願う父親との関係は対立的でもあるようで、このことが一般的に家をつくる時に面する問題に加えて、特殊な状況をもたらしているように思いました。以下、その返信。

いろいろ大変ですね。父と息子の対立とは、具体的にはどのようなものなのでしょう。家づくりに対する根本的な問題なのか、枝葉末節なものなのか。それによっても対処のしかたは違うと思います。一般的に、異なる考えがあるならば、家をつくること、住むことに関して、家族が意見をぶつけあい互いに話をするのが最も大切だと思えます。施工が自ら家族をまとめて議論してくればベストですが、そうならない場合、設計者が何らかの役割を担うこともあります。そういうことを期待され

することも多いです。面倒くさいし、時間はとられるけどつくっちゃってからは遅いから。もちろんキーマン（この場合はお父さん）と組まねばなりません。陰になり日向になり議論を誘導あるいは支えて、全体を軟着陸させることになりましょう。そういうことも難しいときは、ひとつの方法として、個別に意見をもらうことがいいかもしれません。メールが使えるのであれば簡単ですし、書簡でもかまわないと思います。ひとりひとり意見を言えること、それを聞いてもらえるという安心感をもつことが重要です。個別に聞けば、それを専門的総合的に判断し、あるいは家族を客観的にみることで方向性をつけてあげられましょう。

なつた公共建築の経験と同じではないでしょうか。また、設計者と施工の関係は違うにせよ、できてから二十年を経て取り壊された名作の住宅をおもったりします。ある種の一般化あるいは公共化を、その議論のなかに認められるかどうかによっても、われわれの態度は異なるかもしれません。今回の場合、「シックハウス」という社会的



なテーマがあるように思えます。家族の不和が、これとなく関係しているのか、そこに我々にとっても大切と思える問題があるのか。そこに何か別の社会的な問題を捉えられるのか。それとも単に陳腐な問題であって、びしょと「甘えるな」というようにやってしまおうがよいのか、などなど、いろいろな側面から考えてみてはいかでしょうか。いずれにしても、個別のプレゼンテーションはよくないと思います。その場で議論してもらうことが大切で、場合によっちゃけんけんがくがくやってもらわなければ意味がありません。そのめんどくさいことにとどまてかわるかは、「家」をつくることを、事務所がどのように捉えるかによる、でよいのではないのでしょうか。建築としての作品（ブツ）をつくることを最終的にはなされねばならぬことだとしても、そこに到るまでの何を「リアル」として「われわれが求めるか、それともそれは求めないか、でしょうか。もっともそんな高級な次元の話でないのなら、そんなにのりだしていくことはあたらなないのかもしれませんが。

追伸：住宅は大変だよほんと。どこかに普遍的（かと思えるよう）なテーマを見つけないと、やる気がなくなっちゃうね。なんでこんな個人的なこと（個人の欲望を満たすだけのこと）に我々のエネルギーをつかわなきゃならぬのか。と。でも、市井の個人の建築家はそれをちまちまとやっているのじゃな。そしてそれも大切なことではあるのだけれど。

（篠崎健一）

スキャンダリストティック scandalistic ?

テレビで評論家がある芸術家のことを「スキャンダリストティック」と言っていた。ポーッと見てたんで詳しいことは何一つ覚えてないが、その言葉に私は反応したのであった。scandalistic? そんな単語はたぶんない。形容詞なら「スキャンダラス (scandalous)」でよかるうものを、こいつ、よくいるカタカナ使いたがりなんだろうな。

いちおう、調べてみる。綴りは scandalistic に間違いはなからう。手近の英和辞典にはない。まさかとは思うがオックスフォード英語辞典にもあたってみる。ない。ありうるとしたら、google。造語で存在する可能性は充分ある。検索。あれ、2万7千もある。よく見てみると、バンドの出したアルバムやアダルトDVDのタイトルなど固有名詞が目立つが、普通の形容詞として使われている例も少くない。

Britain is the country of scandalistic newspapers and tabloids.

イギリスはスキャンダリストティックな新聞の国だ。

I don't see nothing strange or scandalistic to take part to that beauty competition.

わたしその美人コンテストに出場するのが変だとかスキャンダリストティックだとかぜんぜん思わないわ。

べつに scandalous でいいような気もするが、いずれもなんとなく「社会的なスキャンダルを巻き起こす」ってかんじの使い

方をしているように思える。これは実際“cause scandal”という言い回しがあるが、それを形容詞化したってことなのか。でも、それって scandalous じゃん。

改めて scandalous を引いてみる。

「外聞の悪い、けしからぬ、憤慨にたえない、言語道断な、中傷する、中傷的な、陰口をきく、悪口の」(リーダーズ英和辞典)

日本語で流通している「スキャンダラス」とだいたい同じだ。上の二例のほか google で引っ掛かって来たやつはどれもやっぱり scandalous でいいような気がする。けっきょく“気まぐれ”ってことか。ならば市民権を得るのは現状無理。それでも冒頭の私の言葉、「そんな単語はたぶんない」は訂正が必要のようだ。そういう言葉はある。

ちなみに日本語としての「スキャンダリストティック」はどうだろう。検索すると14件ある。

「ワイドショーなどのスキャンダリストティックで、ものごとを単純化し過ぎている情報」

「売れるものといえばよりスキャンダリストティックあるいはプライベートなモノ」

あれ、最相葉月がブログで「この欄は現代の科学技術を語るエッセイですので、スキャンダリストティックなものではありません」なんて言ってる。

なんだか強すぎる「スキャンダラス」の意味を薄めたいようにも思えるが、仮にこれを“正しい”英語に訳すなら、やっぱり scandalous か、あるいは“controversial (物議を醸す)”かな。英語の方もいくつかはこの言葉に置き換えは可能だと思うけど、やっぱり“scandal”が入ってる方がインパクトがある。でもだったら scandalous でいいじゃん……。

(望月)



毎日

#50

When I think of the word "everyday" it conjures an image of repetition. I take a shower every morning, go to the pub after the work, cycle home everyday. Ordinary things in our life make it everyday. A daily life.

I like this repetition.

By piling up days one top of another, we make our daily life, like building blocks. Can't we take our imagination out from that? How we look at the ordinary days is how we live our life. An ordinal thing doesn't have to be always boring.

Everyday we eat, everyday we sleep and the every day is tomorrow from yesterday. In every 24 hours, cockerel tells us the begging of the day and it starts. This is our playground. There is no reason why we shouldn't have fun on the newest day of our life.

突然ですが、これは僕がロンドンでのエキシビションに参加した際に書いたもの。テーマは「Everyday」。僕はこのテーマがなかなか気に入っていて、近ごろ毎日の暮らしや当たり前のもの、そう言った何でも無い所を大切にしていければと思っている。「日常」や「繰り返し」と言った言葉から感じられる退屈さとは別に、そうでない、心地よさ、新鮮さもその中にはあると思うのだ。例えば、毎日の朝ご飯。もしくは、毎日植木に水をやったり、散歩に出かけたりといった事。そう言ったものから、何か想像力のエネルギーを引っ張ってこれないかなぁ、などと考えているのです。

(神山朝人)



運命じゃない人

2004年公開(日本)

DVD: AVBC-22515 (エイベックス)

監督・脚本: 内田けんじ

出演: 中村靖日、霧島れいか、山中聡、板谷由夏



Films

おもろかったなあ、と素直に言える映画は意外に少ない。実のところ、そんなものは滅多に出合えるものではない。けれども、「おもろかったなあ」の前に「意外に」だの「結構」だの「それなりに」だのという形容を被せるとすると、気分にもよるけれど、範囲が一気に広がる。この作品もそんな中の一つである。おもろかったなあ、と、それだけを言い切ることはためらわれるけれど、ちよつと観てみて「あらんよ、と友だちにすすめたくなるほどには面白い、というふうな」

豪華な役者に頼らず(頼れず)とも、凝ったCGやセットを使わなく(使えなく)とも、それを補うだけの豊かな発想があれば(ついでに、運や出会いがあれば)、良い映画が撮れるんじゃないかなあ、と。しかも、

低予算にありがちな、内省的な私小説臭漂うものなんぞでも目や頭が疲れる実験的な作品なんぞでもない。笑いあり、サスペンスあり、ちよつとしたロマンズもあり。

なんか(何)日本ではなく、ダグ・リーマン監督の「ヤ・シューティング・スター」、はたまた「ロック、ストック&トゥー・スモーキング・パレルズ」なんぞを思い出して「ちよつとね」というような意見が聞こえてきそうだし、実際問題、同じような手法や物語を持つ作品でありながらも、それらの方が面白いことは否定しない。けれども、日本のこんな監督、こんな役者たちの可能性に期待したい私がかここにいて、ちよつと観てみて「あらんよ、とすすめずにはいられなくて」。

(全太)

(一面から続く)

翌日になって、宿酔の気味の頭であれこれと思ひ出す。日本を離れて二十年ほどだろうが、この男、若いうちに外国暮らしを始め、世界をうろつろして、結局、ドイツ人の嫁さんを迎え、ロサンゼルスで生活している。日本から……というより、東京から……というより、杉並から……というより、阿佐ヶ谷界隈から殆ど出ることのない私とは相当に懸け離れた生き方だと言えなくもない。けれども、ちよつと呑もつぜ、と気軽に近所で一杯一杯、なんてことができてしまうのは、ひとつには、インターネットや携帯電話という文明の利器のおかげである。けれども、それはあくまでも一つの要素に過ぎない。根本にあるの

は、お互いのバックグラウンドや精神性の近さ。それが、たまの再会をたまのものと感じさせない主因であらう。

たものの、アメリカから眺めると日本はそういう風に見えるのかなあ、と、釈然としない思いを抱えた。

巫山戯た話から些か堅い話まで、あれこれと交わした四方山の中、不思議に感じたところがひとつ。日本はほとんど左傾化が進んでいるよね、と彼が言ったこと。日本人がテロや戦争の脅威をあり得る現実として受け止めていないからなんじゃないかな、というふうな説を一行。確かに、テロや戦争が私たちにとつてどの程度のリアリティを持っているのか、と問われたなら、そりゃ、それほどでもないさ、と認めざるを得ないけれど、左傾化が進んでいるという話が違つよね、寧ろ、逆じゃないかしら、とママさんと私。酔った上での世間話なのでどうでもよいようなことであつ

暫く振りに会つてもお互いあんまり変わらんね、と旧友と楽しく時間を過ごしたけれど、私たちが生まれ育つた阿佐ヶ谷という背景は随分とその姿を、表情を変貌させつつあるのだなあ、と思う。そう思うと、近所で擦れ違つ人々の顔さえストレンジに見えなくもない。こののち、我が団地の再開発が現実のものとなつたとき、さて、阿佐ヶ谷の風情はまだ残るだろうか。仮に目には見えなくなつたとしても、私の心の中には永遠に残るのだ、と、そう言つことはできるだろうけれど……。

(全太)



Ken-ichi Shinozaki,
architect

Voice: +81-3-3220-0633
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ



ROCKET SOCKET

Cafe Dining & Darts
www.rocket-socket.com
03-3419-0619

編集後記
からす新聞第八巻十一号通巻第九十五号(無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は二〇〇六年十二月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。